



3 【議事】

「柏市未来につなぐ魅力ある学校づくり基本方針」について

(2) 市立学校を取り巻く現状及び課題への対応の方向性について

ア 基本方針 構成イメージ

イ 柏市が目指すこれからの学校教育



◆ 柏市未来につなぐ魅力ある学校づくり基本方針 構成イメージ

第1章 基本方針の概要

- 1 方針策定の目的
- 2 方針の位置づけ
- 3 方針期間

第2章 学校を取り巻く現状と課題（背景）

- 1 児童生徒数の推移と将来推計
- 2 学校規模の現状と今後の見込み
- 3 学校施設の老朽化状況
- 4 通学路の現状
- 5 柏市の教育課題について
 - (1) 学校の規模により生じる変化
 - (2) 学力・学習状況
 - (3) 不登校児童生徒への支援
 - (4) いじめ
 - (5) 特別支援教育
 - (6) 子どもの居場所
 - (7) 教職員の多忙化
 - (8) 学区の不整合
 - (9) 市立柏高等学校

第3章 柏市が目指すこれからの学校教育

- 1 人口減少・産業構造の変化
- 2 文部科学省の考え方
 - (1) 第4次教育振興基本計画
 - (2) ウェルビーイング
- 3 柏市が目指す子ども像
- 4 柏市が目指す学校教育
 - (1) 主体的・対話的で深い学びを実現する授業・カリキュラム
 - (2) 小中一貫教育

第4章 基本方針の具体的内容

- 1 基本方針の柱
- 2 方針実現のための指針・基準
 - (1) 望ましい学校規模
 - (2) 許容する通学距離、通学時間
- 3 望ましい学校規模の範囲に近づけるための方策
 - (1) 学校の適正な配置
- 4 学校施設および運営面での教育課題に対する対応策
 - (1) 学校施設
 - (2) 学力・学習状況
 - (3) 不登校児童生徒への支援
 - (4) いじめ
 - (5) 特別支援教育
 - (6) 子どもの居場所
 - (7) 教職員の多忙化
 - (8) 学区の不整合
 - (9) 市立柏高等学校

第5章 推進に向けて

- 1 今後の検討の進め方
- 2 推進方法と体制
- 3 留意事項

柏市教育政策審議会での取り扱い

- ・第1～2章：第1～2回審議会（実施済み）
- ・**第3章：第3回審議会（R6.3.19）**
- ・第4～5章：第4回審議会（R6.5 ※日程調整中）
：第5回審議会（R6.7 ※ “ ”）

【全体像】 柏市が目指す子ども像・学校教育

日本社会の課題

予測困難な時代 気候変動 デジタル化 少子高齢化・人口減少 等

目指す方向性

- ✓ 一人一人が**持続可能な社会の担い手**
- ✓ 社会全体の**ウェルビーイング**の実現
- ✓ **誰一人取り残すことなく**，誰もが**生き生きと人生を享受**する**共生社会の実現**

柏市の子どもを取り巻く主な課題

人口減少 少子高齢化社会の到来
学校施設の老朽化
長期欠席や特別支援に係る児童生徒増加
子どもの相対的貧困率約 1 割

社会が劇的に変化し
先行き不透明
↓
人材育成の基盤である
義務教育は一層重要

柏市が目指す子ども像
(仮) **“自己肯定感を高めながら 未来を切り拓く かしわっこ”**
予測困難な時代の中で、心身ともに健康で、知性と感性に富み、自己肯定感を高めながら人間性豊かに成長し、様々な課題を主体的かつ協働的に解決できる柏の子ども

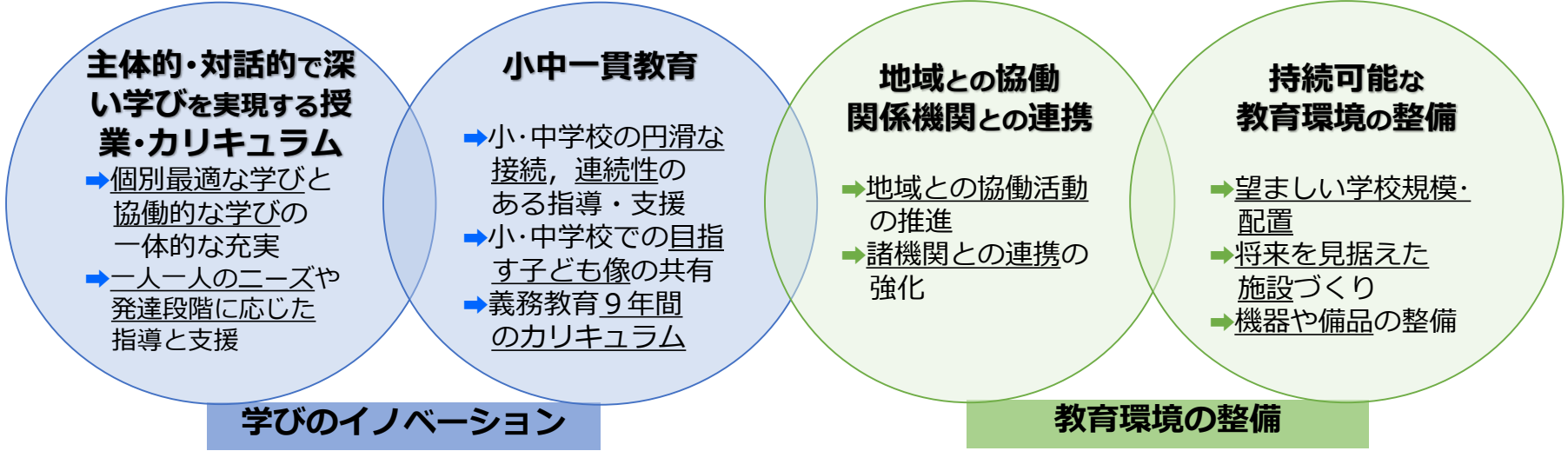
子どもたちが身に付ける資質・能力
“4つのC”

※第2次柏市教育振興計画

未来につなぐ柏の教育
～学び続ける力の育成，多様性の尊重，安全・安心な学校づくり～

子どもに身に付けさせたい力
“4つのC”

柏市が目指す学校教育 ～子どもたちのウェルビーイングの実現に向けた、誰一人取り残さない学校教育～



1 人口減少・産業構造の変化

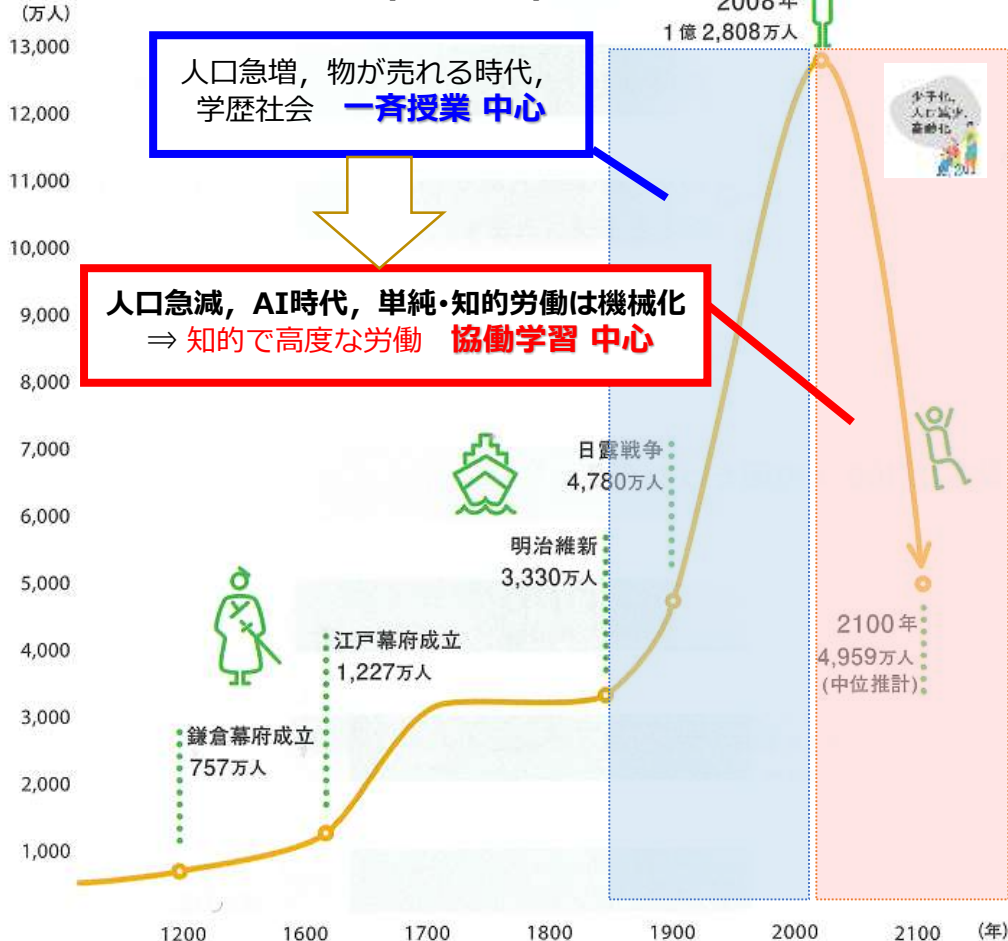


■文部科学省「第4次教育振興基本計画」で示された日本の教育の主な課題

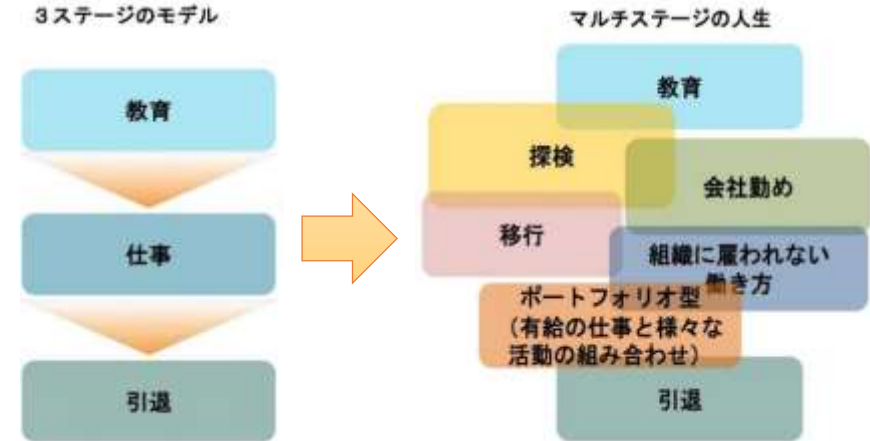
- 将来の予測が困難な**VOUCA**の時代 ※Volatility: 変動性, Uncertainty: 不確実性, Complexity: 複雑性, Ambiguity: 曖昧性
- 地球規模の課題 (気候変動, デジタル化)
- **少子化, 人口減少, 高齢化** 等

様々な社会情勢が
連動し、問題が
多様化・複雑化

■日本の総人口の長期推計(-2100年)



- 日本の人口のピーク 1億2,808万人 (H20)
- 総人口の見込み 約7,800万人 (R52) ※65歳以上が約4割
- 経済活動
15~64歳人口減少し外国人頼りの傾向
労働人口の約半数がAIやロボットに代替できる可能性 (今後15年以内)
- 人生100年時代
日本の子ども (H19生まれ) の50%が107歳まで生きる見込み
- 人生のステージの変化



出典 『人口減少×デザイン』(2015), 国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」中位推計値 (2012年1月推計), 国土庁「日本列島における人口分布変動の長期時系列分析」(1974年)

出典 平成29年第1回100年時代構想会議資料
国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(令和5年推計)結果の概要」

2 文部科学省の考え方

(1) 第4次教育振興基本計画 (令和6年6月16日閣議決定)



教育の不易と流行

将来の予測が困難な時代の教育の羅針盤

- めまぐるしく変化する社会で、**一人一人が持続可能な社会の担い手**となること、そして**社会全体のウェルビーイングの向上**を目指し作成
- 社会の多様化が進む中、障害の有無や年齢、文化的・言語的背景、家庭環境などにかかわらず、**誰一人取り残されることなく、誰もが生き生きとした人生を享受することのできる共生社会の実現を目指す**
- **教育こそが、社会を牽引する駆動力の中核を担う営み**

2つのコンセプト

持続可能な社会の創り手の育成

- 将来の予測が困難な時代に、未来に向けて自らが社会の創り手となり、持続可能な社会を維持・発展させていく人材を育てる
- 主体性、リーダーシップ、創造力、課題設定・解決能力、論理的思考力、表現力、チームワークなどを備えた人材の育成

日本社会に根差したウェルビーイングの向上

- 多様な個人それぞれが幸せや生きがいを感じるとともに、地域や社会が幸せや豊かさを感じられるものとなるよう、教育を通じてウェルビーイングを向上
- 幸福感、学校や地域でのつながり、協働性、利他性、多様性への理解、社会貢献意識、自己肯定感、自己実現等を調和的・一体的に育む

5つの基本的な方針 → 16の目標から構成



2 文部科学省の考え方 (2) ウェルビーイング (Well-being)



ウェルビーイングとは

- **身体的・精神的・社会的に良い状態**にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる**持続的な幸福**を含む概念
- **多様な個人がそれぞれ幸せや生きがい**を感じるとともに、**個人を取り巻く場や地域**、**社会が幸せや豊かさ**を感じられる**良い状態**にあることも含む包括的な概念

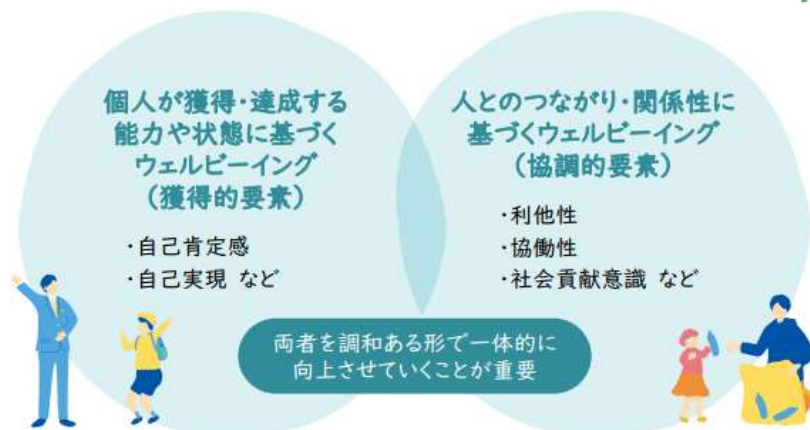


図 日本社会に根差したウェルビーイングのイメージ



図 ウェルビーイングの循環のイメージ



図 教育とウェルビーイング



つなぐも
つなぐ。

3 柏市が目指す子ども像

背景

将来の予測が困難な、VUCA*の時代



地球規模課題



少子化、人口減少、高齢化



低い労働生産性、学ばない社会人



国や社会に対する意識の低下



※Volatility: 変動性 Uncertainty: 不確実性
Complexity: 複雑性 Ambiguity: 曖昧性

柏市でも…
人口減少 少子高齢化社会の到来
学校施設の老朽化
長期欠席や特別支援に係る児童生徒増加
子どもの相対的貧困率約1割



※出典 画像は「第4次教育振興基本計画」リーフレット

Well-Being実現のための重要な要素

“自己肯定感”



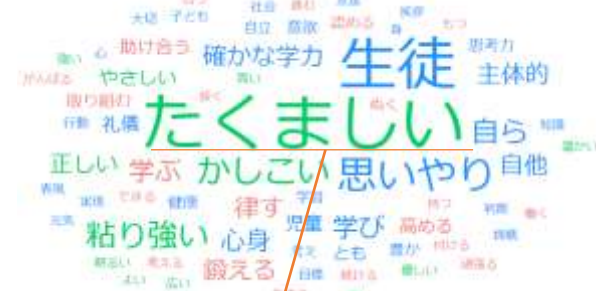
※第2次柏市教育振興計画

未来につなぐ柏の教育

～学び続ける力の育成，多様性の尊重，安全・安心な学校づくり～

子どもに身に付けさせたい力
“4つのC”

※市内小・中学校の目指す子ども像（R5）分析



※凡例
青字 名詞
赤字 動詞
緑字 形容詞

柏市が目指す子ども像 (仮) **“自己肯定感を高めながら 未来を切り拓くかしわのこ”**

予測困難な時代の中で，心身ともに健康で，知性と感性に富み，自己肯定を高めながら人間性豊かに成長し，様々な課題を主体的かつ協働的に解決できる柏の子ども

※用語参照 文部科学省資料

「今，求められる力を高める総合的な学習の時間の展開 未来社会を切り拓く確かな資質・能力の育成に向けた探究的な学習の充実とカリキュラム・マネジメントの実現」

子どもたちが身に付ける資質・能力 **“4つのC”**



表 子どもたちに身に付けさせたい4つの力（柏市教育振興計画）

4つの力（C）	見出し	項目
見通す力 (Concept)	夢・目標	将来の夢や目標を持つことができる。
	計画	物事に取り組むときに、計画を立てることができる。
	振り返り	学んだ結果、よく分かったこと、あまり分からなかったことを整理することができる。
	分かる努力	分からなかったことを友達や先生に聞いたり、調べたりすることができる。
	改善	物事に取り組んだ時に、どうすればもっと良くてできるか考えることができる。
挑戦する力 (Challenge)	目標への努力	夢や目標に向かって、近づくための努力をすることができる。
	粘り強さ	諦めずに粘り強く取り組むことができる。
	挑戦	失敗を恐れずに挑戦することができる。
関わり合う力 (Communication)	相手の立場に立って考える力	自分が相手の立場だったら、どう思うかと想像することができる。
	思いやり	誰に対しても、温かい心で接することができる。
	伝える力	友達に自分の考え・意見を説明することができる。
	傾聴	話し合い活動の際に、他人の意見を最後まで聞くことができる。
	相談する力	悩んでいることや心配していることを、先生、友達、保護者などに相談することができる。
	協働	自分だけでは解決できない問題について、友達や先生の助けを求めて、一緒に取り組むことができる。
	地域との関わり	自分が学んだことを、自分が住んでいる地域や社会の問題解決に役立てようとするすることができる。
自立する力 (Control)	主体性	課題に自ら取り組むことができる。
	自己肯定感	自分の長所・短所を含め、自分自身を認めることができる。
	規範意識	ルールが必要となる理由や、なぜ守らなければいけないかを考えることができる。

4 柏市が目指す学校教育 ～子どもたちのウェルビーイングの実現に向けた、誰一人取り残さない学校教育～

(1) 主体的・対話的で深い学びを実現する授業・カリキュラム



一斉指導中心のこれまでの教育
(子どもが課題意識を持たない受身の授業)

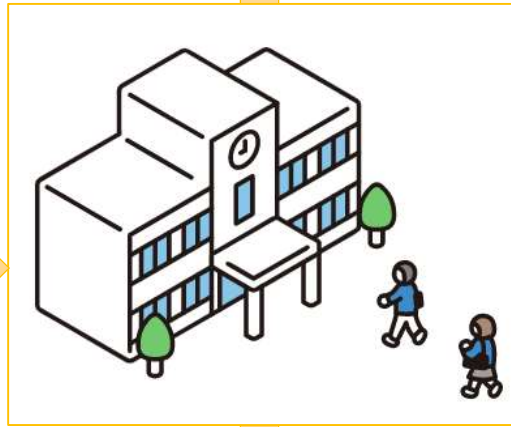


中学校区単位での連携

地域との協働

「正解主義」や「同調圧力」
への偏りからの脱却

一人ひとりに目を向けた
発達に寄り添った指導



一人ひとりの子どもを主語に
する学校教育の実現

学びの継続や保障

教育弱者を生まない



ICTを活用しながら、個別最適な学びと協働的な学びを
一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の
実現に向けた授業・カリキュラム改善につなげる



教育環境の整備

関係機関との連携

【参考】主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善



「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行うことで、学校教育における質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的（アクティブ）に学び続けるようにする。

【主体的な学び】の視点

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。



主体的な学び
対話的な学び
深い学び

学びを人生や社会に
生かそうとする
学びに向かう力・
人間性等の涵養

生きて働く
知識・技能の
習得

未知の状況にも
対応できる
思考力・判断力・表現力
等の育成



【対話的な学び】の視点

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。



【深い学び】の視点

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。

【参考】 個別最適な学習・協働的な学習



「子供の学び」の姿

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、
「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげる



個別最適な学び
協働的な学び

一体的に充実



主体的・対話的で
深い学び

授業外の学習改善

授業改善

＼子供の資質・能力の育成／

個別最適な学び【学習者視点】（＝個に応じた指導【教師視点】）

＼子供が自己調整しながら学習を進めていく／

指導の個別化

- ✓ 子供一人一人の特性・学習進度・学習到達度等に応じ、
- ✓ 教師は必要に応じた重点的な指導や指導方法・教材等の工夫を行う
 - **一定の目標を全ての子供が達成することを目指し、異なる方法等で学習を進める**



学習の個性化

- ✓ 子供一人一人の興味・関心・キャリア形成の方向性等に応じ、
- ✓ 教師は一人一人に応じた学習活動や課題に取り組む機会の提供を行う
 - **異なる目標に向けて、学習を深め、広げる**



協働的な学び

- ✓ 子供一人一人のよい点や可能性を生かし、
- ✓ 子供同士、あるいは地域の方々をはじめ多様な他者と協働する
 - **異なる考え方が組み合わせたり、よりよい学びを生み出す**



→ **学び合いの実現のためには、一定の集団規模が必要**

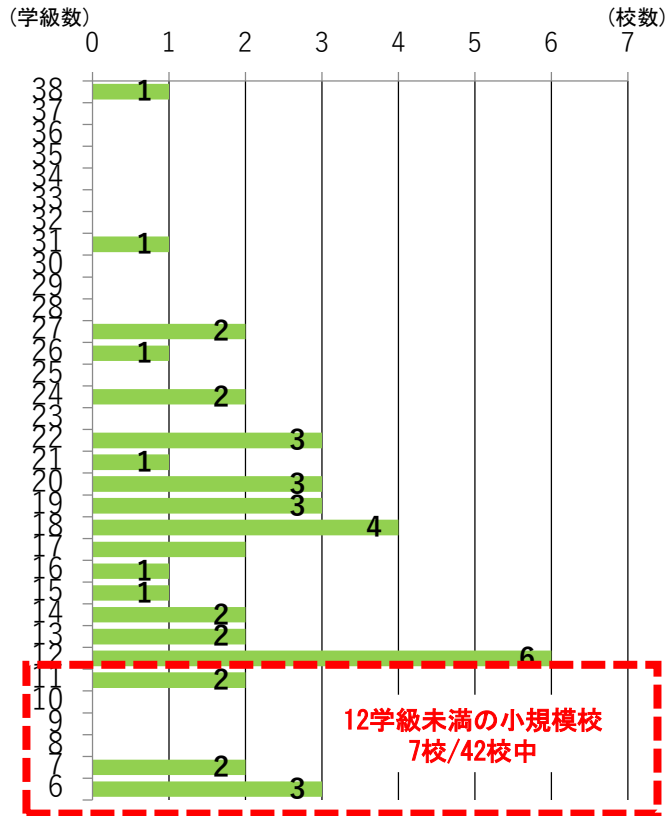
義務教育段階において目指す学びの姿

- 基礎的・基本的な知識・技能や学習の基盤となる資質・能力等の確実な育成が行われるとともに、多様な一人一人の興味・関心等に応じた学びが提供されている。
- 児童生徒同士の学び合いや探究的な学びなどを通じ、地域の構成員や主権者としての意識が育まれている。
- すべての児童生徒が安全・安心に学ぶことができる。

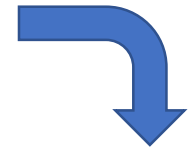
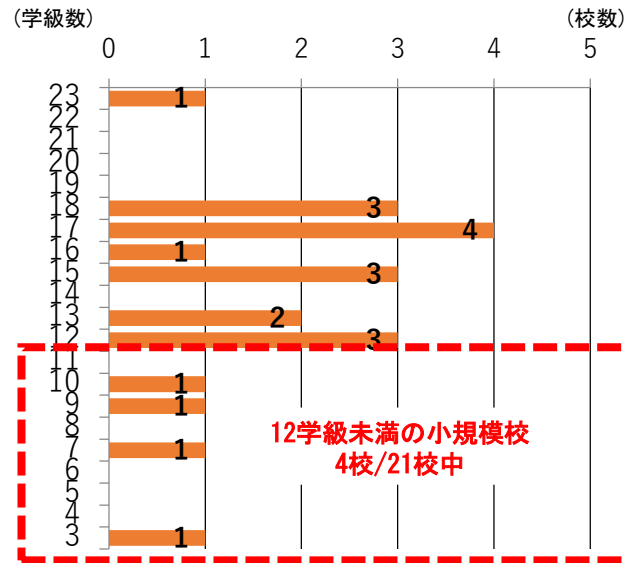


【参考】学校の規模により生じる変化①

学級数別の小学校数



学級数別の中学校数



柏市立小中学校は、地域により
学校規模も様々
⇒**大規模な学校と小規模な学校
が混在**



10年、20年、30年と時間の経
過とともに、**大幅に小規模な学
校が増加する見込み**

? **学校の規模により
どんな変化が?**

※小・中学校ともに令和5年5月1日時点の学級数（特別支援学級は含まない）

【参考】学校の規模により生じる変化②

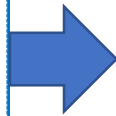


※文部科学省「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き（平成27年1月27日）」を基に作成

過小規模校（6学級/校以下）・小規模校（7～11学級/校以下）

【事象】

- ◆ 全ての学年または一部の学年でクラス替えができない
- ◆ クラス同士が切磋琢磨する教育活動がしにくい
- ◆ クラブ活動や部活動の種類が限定されやすい
- ◆ 全体の教職員数が少ない
- ◆ 進学等の際に大きな集団への適応に困難をきたす可能性がある
- ◆ 複式学級で運営する可能性がある



【考慮の必要な視点】

子ども

- クラス内で男女比の偏りが生じやすい
- 多様な価値観に触れることが困難になりやすい
- 集団の中で自己主張したり、他者を尊重する経験を積みにくく、社会性やコミュニケーション能力が身につけにくい
- 児童生徒の人間関係や相互の評価が固定化しやすい
- 特定の子どもの問題行動にクラス全体が影響を受けやすい

授業

- 班活動やグループ活動に制約が生じやすい
- 協働的な学習で取り上げる課題に制約が生じやすい
- 教科等が得意な子供の考えにクラス全体が引っ張られやすい

教職員

- 教職員と児童生徒との心理的な距離が近くなりやすい
- 1人あたりの校務事務の負担が大きくなりやすい
- 経験年数や専門性等バランスのとれた教職員配置やそれらを生かした指導の充実が困難になりやすい

学校行事

- 運動会等の集団活動や行事の教育効果が確保しにくい
- 一人あたりの保護者の負担が大きくなりやすい

➡ 人間関係の固定化や多様な価値観に触れにくい等、児童生徒の教育環境として課題が多い

【市内の6学級以下の学校の様子】

授業の様子



行事やグループ活動の様子



出典：柏市立学校HP

【市内の7～11学級以下の学校の様子】

授業の様子



行事やグループ活動の様子



出典：柏市立学校HP

【参考】学校の規模により生じる変化③



※文部科学省「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き（平成27年1月27日）」を基に作成

標準規模校（12～24学級/校以下）・大規模校（25学級/校以上）

【事象】

- ◆ 全ての学年で人間関係や男女比等に配慮したクラス替えを行うことができる
- ◆ クラス同士が切磋琢磨する教育活動を実施することができる
- ◆ クラブ活動や部活動の種類や活動内容の選択肢が増える
- ◆ 全体の教職員数が増える
- ◆ 進学等の際に集団への適応に困難を伴わない
- ◆ 児童生徒数・学級数に見合った施設が整備されない場合、学校運営に支障をきたす可能性がある



【大規模校における考慮の必要な視点】

学校施設

- 児童生徒数及び学級数に見合った校舎や運動場等の学校施設を整備する必要がある

授業

- 特別教室や体育館等を利用する場合における授業の割り当てにかかる調整が必要

学校行事

- 児童生徒一人ひとりが活躍する機会が得られるよう、行事の内容や構成を工夫
- 異学年交流の機会を意識的に設定

教職員

- 教員組織として子ども一人ひとりの個性や行動を把握できるよう、**教職員間の連携が必要**
- 校長のマネジメントのもと、全ての教職員が共通理解を図れるよう工夫

➡ ポイントは「必要な学校施設の整備」
一方で、**多様な価値観の共有、切磋琢磨した教育活動、教員の組織対応などメリットも多い**

【市内の12～24学級以下の学校の様子】
授業の様子



行事やグループ活動の様子



※出典：柏市内学校HP

【市内の25学級以上の学校の様子】
授業の様子



行事やグループ活動の様子



※出典：柏市内学校HP

(2) 小中一貫教育 小中一貫教育の定義・求められる背景



■ 小中一貫教育とは

小・中学校段階の教員が目指す子ども像を共有し、
9年間を通じた教育課程を編成し、系統的な教育を目指す教育

連続性のある指導

切れ目のない支援

教職員の連携による
組織的対応

異学年交流の促進

■ 小中一貫教育が求められる背景

1 義務教育9年間を見通した一貫した指導・学習



義務教育9年間の全体像を把握し、系統性や連続性に配慮した教育活動が求められる

2 教育活動や学習活動の質と量の充実



専門性の高い教科指導、子どもをつまづく学習内容へのきめ細やかな指導のため、教員連携が必要

3 子どもの発達の早期化



小学校高学年児童の身体的発達の早期化により、様々な成長の段差への適切な対応が不可欠

4 いわゆる「小中ギャップ」



小学校から中学校への進学に際して生じる学習上・生活上の不応（不登校等）への対応が急務

5 社会性や他者理解を育む必要性



核家族化や少子化による、家庭や地域での社会性育成機能の低下への対応

6 学校現場の課題の多様化・複雑化



学年、学校単位の努力だけでは対応が困難な課題への中学校区単位での組織的な対応が必要

(2) 小中一貫教育

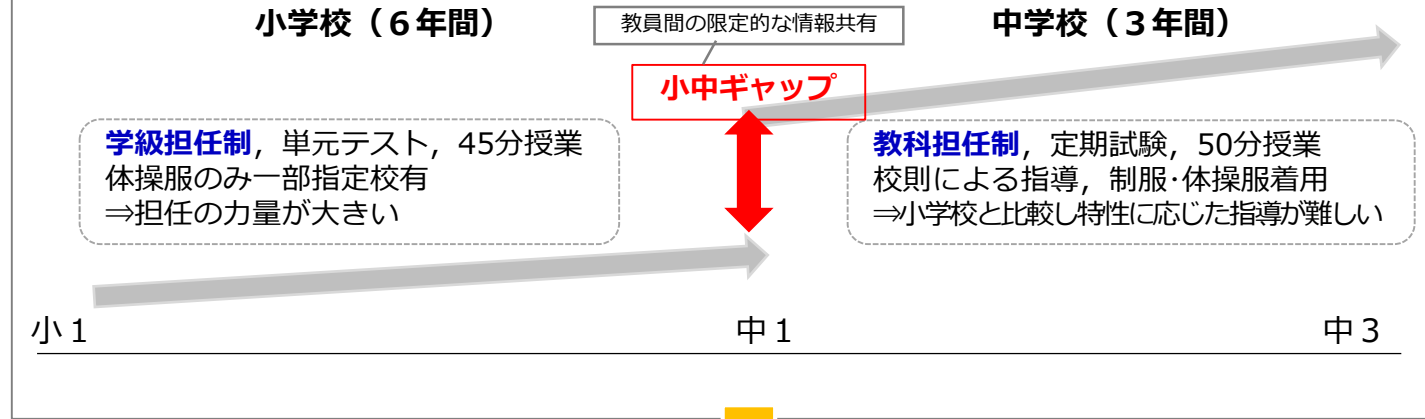
今日的な教育課題の解消としての小中一貫教育の必要性



今日的な教育課題

- ① 小・中学校間の学習・生活上の段差
 - ② 多様な児童生徒への対応
 - ③ 小1プロブレム, 小中ギャップ
 - ④ 学校の役割の多様化・複雑化
 - ⑤ 教員・管理職不足
 - ⑥ 学校の働き方改革
 - ⑦ 人口減少, 学校規模の不均衡
 - ⑧ 施設の老朽化・修繕コスト
- ※⑦⑧義務教育学校の場合

現行の教育制度



小中一貫教育

小学校+中学校=義務教育学校

- ① 小・中学校間の円滑な接続
 - ② 切れ目のない支援の実現
 - ③ 連続性のある指導の実現
 - ④ 教職員の連携による組織的対応
 - ⑤ 組織的な教育活動・事務の実現
 - ⑥ 効率的な事務の実現
 - ⑦ 児童生徒数の減少に合わせた運用
 - ⑧ 施設の維持コストの削減
- ※⑦⑧義務教育学校の場合

小中一貫教育制度

❖ 誰一人取り残さない教育の実現❖

小・中学校間の段差の緩和, 一貫したカリキュラムの設定, 異学年の児童生徒との交流
小学校段階からの一部教科担任制, 小・中学校籍教員による乗入授業

連続した指導, 切れ目のない支援
9年間のカリキュラムで子どもたちを育てる

小1
(前期課程1年)

中3
(後期課程9年) 15

【参考】小中連携，小中一貫教育制度



小中連携教育

小・中学校段階の教員が互いに情報交換や交流を行うことを通じて，小学校教育から中学校教育への円滑な接続を目指す様々な教育

小中一貫教育

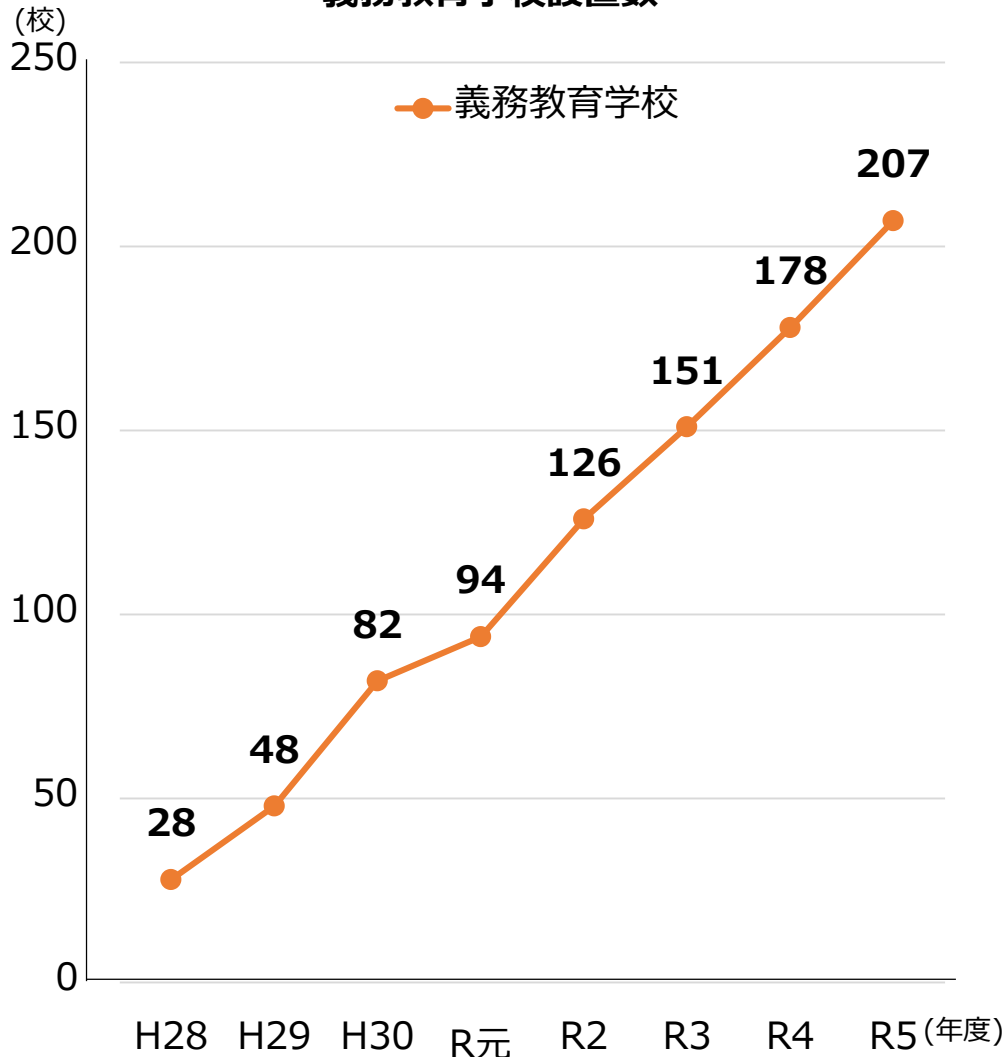
小中連携教育のうち，小・中学校の教員が目指す子供像を共有し，9年間を通じた教育課程を編成し，系統的な教育を目指す教育

	①義務教育学校	②小中一貫型小学校・中学校 (施設一体型・併設型・分離型)	※小中一貫教育実践校 (運用上)
設置者	—	同一の設置者	
修業年限	9年 (前期課程6年・後期課程3年)	小学校6年，中学校3年	
組織・運営	1人の校長，1つの組織	それぞれの学校に校長，教職員組織	
教員免許状	原則，小・中学校両方の免許状 ※当分の間は小学校免許状で前期課程， 中学校免許状で後期課程指導可能	所属する学校の免許状	
教育課程	9年間の教育目標の設定，系統性や体系性に配慮された教育課程の編成 ※指導内容の入替えや移行可		それぞれの学校で編成
設置手続き	市町村の条例	市町村教育委員会の規則等	—
全国設置状況	R5 207校	R5 小学校：958校，中学校：583校	公式データなし
県内導入状況	R5 4校 (市川市，成田市，八千代市)	R5 小学校：13校，中学校：10校 (鴨川市，市原市，長南町等)	公式データなし

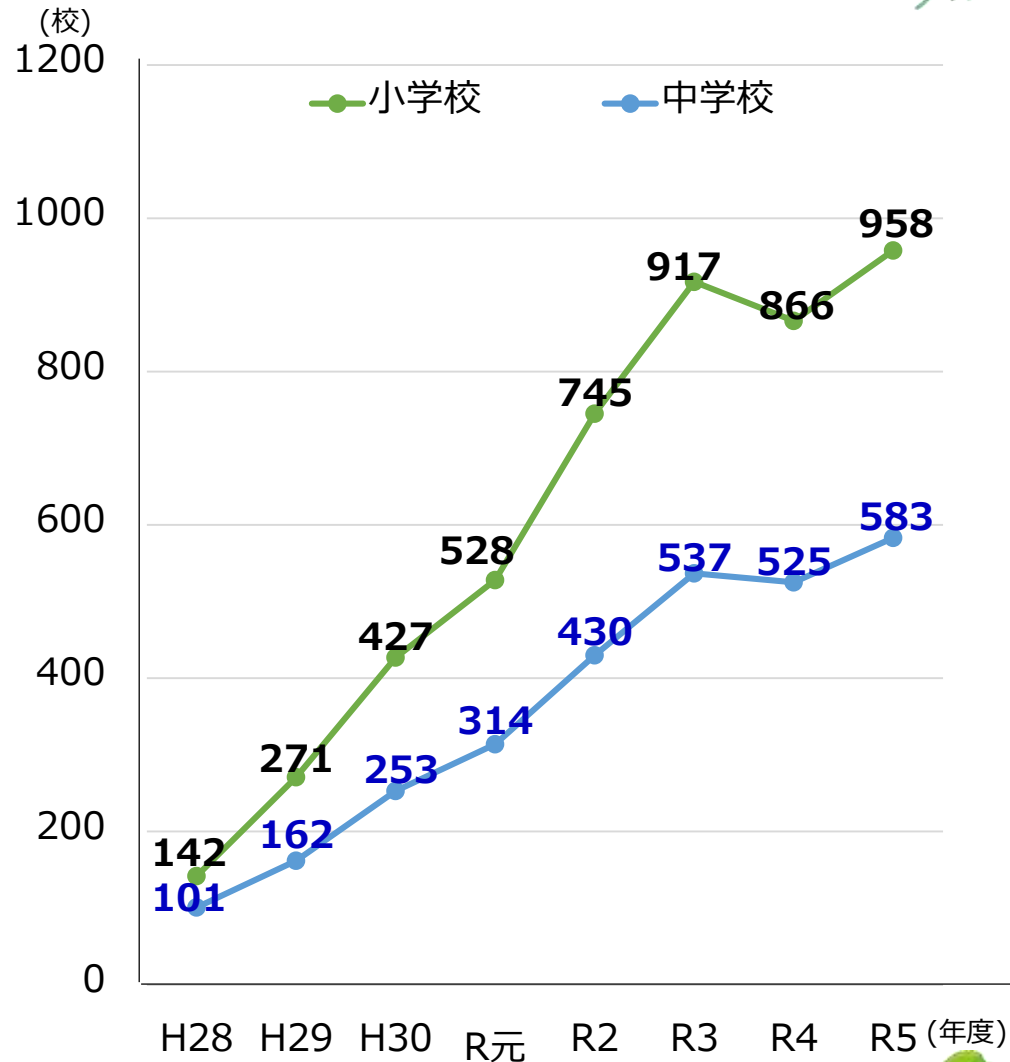
【参考】全国の小中一貫教育導入・義務教育学校設置状況



義務教育学校設置数



小中一貫教育を導入した学校数 (義務教育学校除く)



【参考】 つくば市立春日学園義務教育学校（活動の様子）



小・中学生の授業での交流①（図工）



小・中学生の授業での交流②（体育）



異なる学年での清掃活動



小・中学校教員による授業（音楽）



中学校教員による小学生への授業（理科）



小学校段階からの一部教科担任制

【参考】八王子市立いずみの森義務教育学校（施設）



①校舎全景イメージ



②地域コミュニティスペース

③メモリアル・ギャラリー



④リソース・ルーム
(児童・生徒の個別の学習支援室)



⑤ティーチャーズ・コーナー



⑥体育館は2か所整備

※出典

① <https://raymondsekkei.co.jp/works/education/1048/>

② https://www.city.hachioji.tokyo.jp/kurashi/kyoiku/003/006/006/p004593_d/img/002.jpg



①入口看板



②共用学習スペース



③多言語の図書展示



④読書・調べ学習コーナー



⑤協働学習スペース



⑥発表コーナー

(2) 小中一貫教育 小中一貫教育導入の成果・課題



成果

子ども

幅広い
人間関係の構築



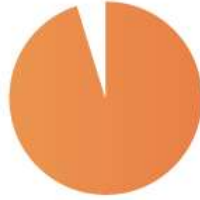
90%

社会性や
規範意識の醸成



88%

上級生の姿を
目標にする



93%

中学校進学に
不安を覚える児童が減少



96%

教育活動

授業が理解できると
答える子どもが増加



77%

学習意欲の向上



80%

学習習慣の定着



81%

子どもの学校生活への
満足度アップ



85%

教職員

連携による
組織対応力の強化



97%

きめ細やかな
指導が充実



82%

教員の
教科指導力アップ



87%

教員の
生徒指導力アップ



85%

課題

学習指導・生徒指導等

9年間の系統性に配慮した
指導計画の作成、教材の開発



43%

年間行事予定の
調整・共通化



38%

小・中合同の行事等における
発達段階に応じた内容設定



28%

時間割や
日課表の工夫



28%

児童生徒の人間関係が
固定化しないような配慮



27%

小学生高学年の
リーダー性・主体性の育成



22%

※出典

文部科学省「小中一貫教育の導入状況調査について」(H29)